

分科会名 体育科	会 場 川崎市立下作延小学校
	助言者 川崎市立下作延小学校 棟居 謙 校長 川崎市総合教育センター 門口 知弘 指導主事
令和4年 8月17日(水)	提案者 川崎市立千代ヶ丘小学校 鈴木 直也 教諭
	司会者 川崎市立土橋小学校 平元 玄太郎 総括教諭
	記録者 川崎市立宮崎台小学校 斎藤 仁 教諭
	世話人 川崎市立三田小学校 富田 将宏 教諭
	出席者数 142名

1. 提案の概要

体育の学習のねらい「〇〇をして楽しむ」とは？ ～ゲームゴール型領域を例にして～

3年生リングボールの学習を通して

体育ゴール型における「楽しむ姿」とは、どういう姿なのか。

楽しさは、一つではないということ。

＜機能的特性＞とは、運動の欲求や必要を充足する機能

この機能的特性を重視して学習を進めることが大切である。

ゴール型ゲームでは、勝敗を競い合う楽しさ。相手と競い合うことが楽しい。

機能的特性を楽しむための手立て

- ①リーグ戦 結果を記録・掲示することで勝敗への意識づけをする。
- ②ピリオド制 繰り返し出場できるので、十分な運動量を確保できる
- ③ライバルチーム 力が拮抗しているライバルチームとは、毎時間勝負をする。
- ④グルーピング チームは、生活班と一緒にして、作戦タイムも充実する。

4つの手立てを行っていくことで、相手と勝敗を競い合う楽しさを味わっている。

＜構造的特性＞とは、運動の形式や技術の仕組み

器械運動では、技ができる。ゲーム領域だと動きができる。といった内容である。

ゴール型ゲームの動きについて考え、動きを細分化した。

すると、ボールを運んで⇒かわして⇒シュートの大きく3つの動きに分けられる。

この3つの動きができるようになるからより楽しい。

構造的特性を楽しむための手立て技能

- ①数的優位を意図的に作る・・・得点した子が得点板をめくりに行く際にボールを運びやすくする。
- ②無敵シートを使用する・・・目印になるので、どの子も動く位置が明確になることと、同時に、相手に邪魔されずに、落ち着いてシュートができる。

数的優位については、攻撃の際、人数を増やすことなども考えられるが、規則や動きが複雑になる。3年生なので、規則が分かりやすいことや数的優位をつくるタイミングが大切だと考え、得点板をめくることにした。

まとめ

- ・「〇〇を楽しむ」という体育の学習のねらいは、必要不可欠であり、学習目標として大切である。
- ・**機能的特性を意識した上で、構造的特性を考慮しながら、学習を展開していく必要がある。**
- ・それぞれの運動特性に触れられるような実践をしていくことで、子供たちは、運動を楽しむことができる。

2 研究協議の概要

- 単元の前半の1・2時間目は、教師が多く言葉かけをしていった。その中でも、具体的な動きを褒めていくことや「次は、どこに動けばいいかな。」と子供たちの思考を促すような言葉をかけていくことが有効だった。
- ゴールの裏側への動きが多く見られたが、指導したわけではなく、子供たちの良い動きをクラスに広げた。そうすることで、単元後半でゴールの裏側への動きが多く見られた。
- 無敵シートは、3時間目まで使用した。子供たちが「無い方がいい。」と言ったので、4時間目以降は、無敵シートを無くした。無くても、子供たちは、動く場所を理解し、積極的にシュートをしていた。
- グルーピングを体育のチームと生活班を一緒にしたが、特に問題はなかった。運動技能なども大切だが、話し合いをまとめるリーダーやチームの盛り上げ役なども考えながら、おこなった。
- 対戦相手とのふりかえりは、有効だった。対戦チームに、「あの動きが良かったよ。」と言われると、子供たちも自信をつけ、次時への意欲へとつながっていたように思う。
- 技能がずいぶん高まっていたが、予備的な運動は、行っていない。すべて、ゲームの中で身に付けたもの。

3 指導講評

川崎市立下作延小学校 棟居 謙 校長

- 運動の楽しさに触れる授業構成になっていたと思う。
- 運動には、特性（競争・達成・克服・模倣）があり、そこを意識して学習することが大切である。
- 技能がないと、ゲームが楽しめないのか。そんなことはないと思う。学習の道すじの工夫、グルーピング工夫、場の工夫、方法（時間、用具、きまり）の工夫などで、補える。
- 良かれと思って、取り込んだ支援が運動の楽しさを奪っていないか？無敵シートは、安心してシュートはできるが、守りができないので動きがとまってしまう。使い方や使うタイミングは、考えながら行う必要がある。
- 現在の指導要領では、思考する力を重視している。ルールや規則、基本的な動きについての指導や言葉かけは、大切だと思うが、「次、どこに動く。」「どうしたらよい。」など、疑問形で子供たちに問い返す。子供たちに考えさせる言葉かけが大切だと思う。
- 低学年から多くの動きに触れていくことが大切。それらの動きが、中学年・高学年への動きに繋がっていく。
- 特に、中学年では、ゲームを行う中で勝敗を競い合いながら、知らず知らずのうちに技能を身に付けていくような授業が展開できると良いと思う。

川崎市総合教育センター 門口 知弘 指導主事

*文部科学省からの伝達講習でした。スライドがあるので、そちらをご覧ください。